

チベット語塔公[Lhagang]方言の物語『菩薩の愛する地・塔公』訳注

—塔公方言の多層構造と物語の異同に関する考察を添えて—

鈴木博之 四郎翁姆 拉姆吉*

1 はじめに

本稿はチベット文化圏東部（カム）に位置する塔公郷（図1）において伝えられる口承物語の中で最もよく知られた伝説『菩薩の愛する地・塔公』について、同地で用いられるチベット語方言による言語資料を提示し、かつ言語学的注釈を与える。同時にこの物語の複数ある伝承形式の異同を取り上げ、考察する。本稿は1つの完結した物語の分析を通して、塔公郷において定住民が用いる Lhagang（塔公）方言（カムチベット語 Minyag Rabgang（木雅熱崗）方言群北部下位方言群）の音声、形態統語について紹介する役割も兼ねる。



図1：塔公郷塔公村の全景（2013年）

澤旺居麥 撮影

* 第二著者チベット文語転写表記bSod-nams dBang-mo、欧文表記Sonam Wangmo、第三著者チベット語文語転写表記Lha-mo-skyid。

1.1 塔公郷の社会的背景とチベット語塔公方言

塔公[Lha-sgang]¹郷は中国四川省甘孜[dKar-mdzes]藏族自治州康定[Dar-mdo]県内に位置し、同県城爐城[Dar-rtse-mdo]鎮から北西に 113km 離れた海拔 3730m 前後の高原地帯にあり、郷内に川藏路が通っている（図 2）。



図 2：塔公郷の位置

塔公とはチベット語で「菩薩の愛する地」を意味する。郷内にある塔公寺[dPal Lha-sgang dGon]は甘孜州内でもっとも著名なチベット仏教サキャ派の寺院の 1 つであり、「小大昭寺 [gTsug-lag-khang Chung-chung]」の異名をもち、カム地域のチベット人が巡礼を行う聖地の 1 つである（図 3 参照）。塔公寺の正式名は「塔公一見如意解脱寺[dPal Lha-sgang dGon mThong-grol bSam-'grub-bling]」といい、現在に至るまで長い歴史を持ち、カム地域のチベット人の中で非常に重要な位置を占めている（Sonam Wangmo 2013; Epstein、彭文斌 2013）。同寺院の中にはラサの大昭寺と同じ形の釈迦牟尼像が安置されている。伝説によれば、文成公主のチベット入りの時にこの地域を經由し、ラサに運搬する釈迦牟尼像のレプリカをこの寺に残したことになる。それゆえ、両者の間には極めて特殊で奇妙な縁があり、そのために現地の人々の中には「チベット・ラサへ巡礼に行きたくても行けない者は、カムの塔公寺の釈迦牟尼像を拝むことでもまた同様の効果と功德がある」と言われており、ゆえに「小大昭寺」の異名が生まれたといえる。

¹ 以下の記述において、初めて現れるチベット語の固有名詞またはチベット語の対応語が必要とされる例について、[]に入れてチベット文語形式（以下「蔵文」）を Wylie 方式に基づいたローマ字転写で示す。ただし、固有名詞の最初頭音節の基字を大文字とする。



図3：塔公寺の正面（2013年）

澤旺居麥 撮影

塔公郷の住民のほとんどはチベット人で牧畜民であるが、塔公郷の中心である塔公村（図1参照）を含め、いくつかの定住地点（村）がある。大部分の住民のアイデンティティは牧畜民[’brog-pa]かつムニャ（木雅[Mi-nyag]）人である。ムニャという名称は、康定を中心とするチベットの伝統的な地理上の名称であるとともに、同地域の民族の名称でもある。地理の視点からみると、ムニャとはチベット人の伝統的な地理概念におけるカム地域の「四河六崗三塘[mDo-khams chu-bzhi sgang-drug thang-gsum]²」の中の1つ「木雅熱崗[Mi-nyag Rab-sgang]」のことを指す。塔公は木雅熱崗の北端に位置する。木雅熱崗のおおよその範囲は、東西については雅拉拉澤[bZhag-brag Lha-rtse]³、折多山[brGyud-lam-ri]、木雅貢嘎[Mi-nyag Gang-dkar]を含む山脈以西、雅礮江[Nyag-chu]以東となり、南北については塔公

² 一般に「四河六崗」の名称をよく見かける。「四河」とは、怒江[rNgul-chu]、雜曲[rDza-chu]、瀾滄江[Zla-chu]、金沙江[’Bri-chu]を指し、「六崗」とは、熱莫崗[Zal-mo-sgang]、擦瓦崗[Tsha-ba-sgang]、芒康崗[sMar-khams-sgang]、奔波崗[sPo-’bor-sgang]、瑪雜崗[dMar-rdza-sgang]、木雅熱崗を指す（Karma rGyal-mtshan 2002:438）。「三塘」とは、カム南部の理塘[Li-thang]、巴塘[’Ba-thang]、建塘[rGyal-thang]を指す。

³ 《藏漢大辭典》(1995:2434)によれば、雅拉拉澤の最初の2音節の藏文は bZhag-bra となっているが、現地の書き方では bZhag-brag となっている。

郷と八美[Bar-smad]鎮の境界線⁴を北端とする一方、南端については明らかではないものの、おそらくは現九龍[brGyad-zil]県内とすることができるだろう。

現在、木雅熱崗地域の住民は大部分がチベット人であるが、彼らの母語は2種類認められる。1つはカムチベット語 *Minyag Rabgang* 方言群に属する方言であり、もう1つは羌語支に属するムニャ語である⁵。この地域に関する言語の研究の中では、後者が常に注目され、さまざまな研究が提出されている⁶。前者については、カムチベット語の中でムニャ地域にのみ認められる特徴を持ってはいるものの、言及されることは少なく、格桑居冕(1985)が本稿の言う *Minyag Rabgang* 方言群がカムチベット語の独立下位方言群「中路次方言」を形成するという意見を述べているのみである。

塔公郷のチベット語に関する先行研究は、それゆえ、さらに少なく、最も早く提出された報告は鈴木(2006)であり、この中で塔公村のチベット語はカムチベット語であると紹介されている。鈴木(2009)および Suzuki (2009)の方言分類によると、このチベット語はカムチベット語 *Minyag Rabgang* 方言群北部下位方言群⁷に属するものとされ、のちに Lha-mo-skyid (2010)もこの分類に基づいて *Minyag Rabgang* 方言群の2つの方言(Lhagang 方言および Rangakha 方言)の概観を述べている。ただし塔公郷の純牧畜地域に暮らすチベット人が話す言語は一般的にアムドチベット語牧畜区方言(現地では「草地話」と呼ばれる)である⁸。加えて塔公郷には農地が存在しないことから、牧畜区の住民の生活は放牧を中心としているため、塔公のチベット語はカムチベット語ではなく牧畜区方言、すなわちアムドチベット語としばしばみなされるが、この見方は塔公のチベット語の一面しか把握していないといえる⁹。

塔公郷で話されるチベット人の言語は、その地理、社会構造などの原因からチベット系諸言語の中でも独特の言語環境にあり、この環境が現地のチベット語に独自の発展をもたらしたため、方言分化の状況も極めて複雑である。共時的な視点で観察すると、塔公村で用いられる言語には2種類あり、すなわちカムチベット語とアムドチベット語である。しかしながら、すべての住民が両者を操るわけではなく、それぞれの家庭環境によってカムチベット語もしくはアムドチベット語を話すといった具合である。Suzuki & Sonam Wangmo

⁴ 筆者の調査によると、塔公、八美双方の住民もまた木雅熱崗の北端をこの地とすると考えている。鈴木(2014)も参考にされたい。

⁵ ただしムニャ語が羌語支に属するかどうか、また羌語支という分類が成立するかどうかは、なお議論の余地がある。

⁶ たとえば黄布凡(1985)、池田(1998)などがある。

⁷ 鈴木(2009)が示した方言群の名称は「木雅(*Minyag*)方言群」であるが、のちに鈴木(2013)でそれを「木雅熱崗(*Minyag Rabgang*)方言群」に改めた。一方で鈴木(2009)は *Lhagang* 方言を農区方言と述べているが、これは誤りである。

⁸ ただし、分布地域が一般に認識されているアムド地域の外にあるため、この種のチベット語方言の研究は少なく、王双成(2012)などアムドチベット語の全体を研究対象とする文献においても塔公や理塘など非アムド地域のアムドチベット語については言及がない。

⁹ さらに詳細な塔公郷の社会背景については、Sonam Wangmo (2013)を参照。

(2014, 2015)は塔公郷のチベット語の多様性について詳しく分析し、その複雑な言語状況を明らかにした。それによると、塔公郷のカムチベット語は少なくとも2種類あり、両者とも塔公郷に長期にわたって定住している住民によって伝承された言語であり、周辺で話されるアムドチベット語との接触を通じて発展したものであるという。

1.2 物語資料の概要

本稿で記述・分析する物語『菩薩の愛する地・塔公¹⁰』は、塔公郷においてもっとも流布している口承の伝説物語である¹¹。この物語の主な内容は塔公寺にまつられているジョウオ [Jo-bo] (釈迦牟尼像；図4、5)の由来に関するもので、文成公主が塔公を通過したときに起こった出来事、および「塔公」の名称の来歴が含まれている。近年同地の社会と旅行業の発展に伴い、より多くの人々が塔公を訪れている。現地のチベット人による文成公主が塔公を訪れた各種の伝説の描写もまた詳細で徹底している。筆者は何度も現地の多くの人々を訪ねてみたが、老若男女によらず、みな文成公主が塔公を訪れたと考えている。



図4：塔公のジョウオ・正面（2012年）
四郎翁姆 撮影



図5：塔公のジョウオ・側面（2012年）
四郎翁姆 撮影

¹⁰ この物語には正式な名称が存在しない。本稿では、その内容に基づき、仮に『菩薩の愛する地・塔公』と名づける。参考として、漢語名を《菩薩喜欢的地方・塔公》、チベット語名を ལྷ་དགའ་བའི་ས་ཆ་ལྷ་སྒང་། *Lha dga'-ba'i sa-cha Lha-sgang* としておく。

¹¹ この物語は現地において有名であるとはいえ、これまで現地のチベット語による語りに基づいて最初から最後まで記録されたことはない。

物語『菩薩の愛する地・塔公』は確かに非常によく知られているが、Suzuki & Sonam Wangmo (2015)が Lhagang 方言の音転写に逐語訳を付し、基礎的な文法分析およびフランス語訳を提供している以外は、チベット語によるテキストの記録やその言語学的分析を行った先行研究は未見である。本稿のチベット語資料はカムチベット語 Minyag Rabgang 方言群に属する Lhagang 方言によって発話されたものを基礎とする。この点は Suzuki & Sonam Wangmo (2015)と一致する。この方言は塔公寺周辺の定住民が話すものを代表とする、方言学上その地名によって名づけられた Lhagang 方言である。

この物語は長く口承されてきたため、すでに細かい部分において差異が生じている。本稿で分析するものは「短編版」であり、「濃縮版」ともいえる性格のものである。筆者はすでにいくつかの「長編版¹²」も記録しており、それにはアムドチベット語による語りのものや、カムチベット語 Minyag Rabgang 方言群の Lhagang 方言による語りのものがある。ただしこれらの分析は本稿では扱わない。短編版物語の言語学的注釈と分析ののちに、これら各版との異同について論じることにする。

本稿で用いる物語の言語資料、および分析時に用いるその他の言語資料は、すべて筆者の現地調査によって得たものである。短編版物語は本稿の第3著者（塔公村出身）によって発話されたものである。

1.3 本稿の構成

本稿の目的は Lhagang 方言による物語の記述（言語学的な研究用の資料）を中心とし、詳細な言語学的分析と注釈のほかに、さらに同物語の版の多様性について議論し、その資料的価値を高めることにある。このため、本稿の構成は以下のように行う。

まず2節でテキストの基本的分析を行い、加えて全体の翻訳を提示する。3節でさらに詳細な音声・形態・統語方面の注釈を与える。4節で物語の各版の異同について論じる。

2節において、物語はその発話を音標文字を用いて記述しつつ語釈を与え、さらに各語に対応する蔵文形式を添える。これはより広い視点からチベット語を研究する際に利便であるためである。蔵文形式の転写方法は注1で述べた原則に従う。

また、付録として、現地への貢献のため、蔵文を転写せず記述した3つの物語のバージョン（文語、2節の発話に基づいた Lhagang 方言の蔵文表記、2節の発話を改めて整理した蔵文表記）を付す。

¹² 長編版は物語の細かい部分まで詳細な描写が含まれるだけでなく、文成公主が塔公を訪れる前のくだりが物語の大半を占める。このことが塔公郷のチベット人がこの物語を *lo-rgyus*（歴史伝説）の一部であると考えたゆえんである。

1.4 Lhagang 方言の音体系

以下に第2節で分析する Lhagang 方言の音体系を子音、母音、超分節音素に分けて示す。

表1：子音体系

		両唇	歯茎	そり舌	前部硬口蓋	硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖音	無声有気	p ^h	t ^h	tʰ		*c ^h	k ^h	
	無声無気	p	t	t̥		*c	k	ʔ
	有声	b	d	d̥		*ɟ	g	
破擦音	無声有気		ts ^h		tɕ ^h			
	無声無気		ts		tɕ			
	有声		dz		dʒ			
摩擦音	無声有気		s ^h		ɕ ^h		x ^h	
	無声無気	ɸ	s	ɕ	ɕ		x	h
	有声		z		ʒ		ɣ	f
鼻音	有声	m	n		ɳ		ŋ	
	無声	m̥	n̥		ɳ̥		ŋ̥	
流音	有声		l	r				
	無声		l̥					
半母音	無声							
	有声	w				j		

注：*を伴う硬口蓋閉鎖音は Lhagang 方言 A 類（2節参照）にのみ認められる。

表2：母音体系（舌位置）

i	ɯ	uu
e	ə ə	o
ɛ		ɔ
a	ɑ	

注：母音は長短および鼻母音/非鼻母音の対立も認められる。

超分節音素

ピッチの高低による4種類の声調が認められ、語声調として現れる。以下の記号を語頭に付す：

ˉ:高平 ˊ:上昇 ˋ:昇降 ˋˋ:下降

一音節語における声調は、高低の2種のみ（高平および下降を高調、上昇および昇降を低調とする）が区別される。

2 『菩薩の愛する地・塔公』言語資料と翻訳

本節ではカムチベット語 Minyag Rabgang 方言群の Lhagang 方言によって語られた物語『菩薩の愛する地・塔公』の音形式、語釈、直訳ならびに全体の翻訳を行う。

言語資料の言語は Suzuki & Sonam Wangmo (2014, 2015) に紹介、かつ定義される 2 種類の Lhagang 方言 (A 類、B 類¹³) における B 類の発音と基本的に一致する¹⁴。そのため、それぞれの句の通し番号の前に B を付す。この番号は続く 3 節、4 節においても用いられる。各句は基本的に 4 段から構成され、その内容は以下のようなものである。第 1 段は Lhagang 方言 (B 類) の音標文字¹⁵による、形態素分析を伴う記述である。第 2 段は Lhagang 方言 (B 類) の発音に対応する蔵文文語形式を与える。文語形式を欠く場合は現地で用いられている慣用的な蔵文表記を与える。第 3 段は語釈である¹⁶。第 4 段は文全体の和訳である。

2.1 言語資料

- (B1) ʼnə ma ʼna^hna^h-la ʼdza ʼza ʼkō dzo-Ø ʼpo-la ʼja la ʼde t̥ʃ
 nyi ma gna' gna' la rgya bza' kong jo bod la yar la gdan grangs
 昔々-[位] 文成公主¹⁷-[絶] チベット-[位] 上へ 迎える
 ʼhkaʔ-la

 skabs la
 時-[位]
 昔々¹⁸、文成公主がチベットへ迎えられたとき、

¹³ A 類と B 類は同じ方言 (Lhagang 方言) の中の 2 つの発音上の類型であり、両者とも同一の Lhagang 方言母語話者の言語体系に含まれる、社会言語学的変種とみなされる (Suzuki & Sonam Wangmo 2014)。A 類はアムドチベット語の影響を比較的強く受けている変種で、B 類は塔公村の地域方言の特徴を多く留保している変種である。A 類と B 類の間の言語特徴に関する詳細な異なりについては Suzuki & Sonam Wangmo (2015) を参照。

¹⁴ 物語の語りの一部は A 類に属する方言音が含まれる (個々の事例については 3 節で指摘する)。このような状況は Lhagang 方言ではよく見られる。

¹⁵ 1.4 節の表記に従う。

¹⁶ 語釈に用いる略号は以下の通り：

2 二人称	3 三人称	[絶] 絶対格	[達] 達成	[共] 共格	[接] 接続詞
[判] 判断動詞	[祈] 祈願	[定] 定性	[能] 能格	[属] 属格	[伝] 伝聞
[感] 感嘆詞	[内] 内格	[意] 意志未来	[位] 位格	[否] 否定	[名] 名詞化
[過] 過去	[状] 状態	[主] 主題			

2 つの機能が 1 つの音形式に現れる場合、[名・属] のように . を用いて表す。

物語の中には位格を伴わない地名などの語がしばしば現れるが、これは文法格としての絶対格におかれているわけではない。それゆえ「ゼロ」格表記を与えない。

¹⁷ チベット語 rgya bza' kong jo は「漢族の地域の姫」の意味である。この物語の中では文成公主を指すことが自明であるため、語釈もそのように与える。

¹⁸ この物語にかかわる資料 (4 節参照) を参考にすると、物語の舞台は西暦 641 年になる。

- (B2) ʔh̥ɔ̃ ʔh̥dza po-gə ʔkʰo-la ʔtɕo wo ʔtɕiʔ-Ø ʔz̥i-zə-reʔ
thang rgyal po gyis kho la jo bo cig sbyin zin red
 唐の皇帝-[能] 3-[位] ジョウオ 1-[絶] 贈る-[過]-[判]
 唐の皇帝¹⁹が彼女に1体のジョウオを送りました。

- (B3) ʔte ʔtɕo wo-tə-Ø-na ʔh̥dza ʔh̥za ʔkõ dzo-gə ʔla sʰa ʔja la ʔkʰu
de jo bo de na rgya bza' kong jo gyis lha sa yar la khur
 それで ジョウオ-[定]-[絶]-[主] 文成公主-[能] ラサ 上へ 携帯する
 ʔŋd̥o-ʔh̥go ʔh̥sã-zə-reʔ-sə reʔ
'gro dgos bsam zin red zer red
 行く-[意] 思う-[過]-[判]-[伝]

それで、そのジョウオを文成公主はラサに持っていこうと思ったそうです。

- (B4) ʔte ʔla ʔh̥gə ʔhtseʔ ʔh̥kaʔ-la
de lha sgang slebs skabs la
 それで 塔公 到着する 時-[位]
 (彼女が) 塔公に到着したとき、

- (B5) ʔtɕo wo-gə ʔkʰa ʔaʔ-zə-reʔ-sə reʔ
jo bo de na kha grags zin red zer red
 ジョウオ-[能] 口を開く-[過]-[判]-[伝]
 ジョウオが口を開いたそうです。

- (B6) ʔsʰa tɕʰa ʔhtɕi po ʔh̥ʔaʔ mo ʔtɕiʔ-Ø ʔreʔ
sa cha skyid po skrag mo cig red
 ところ 幸せで美しい とても 1-[絶] [判]
 「(ここは) とても幸せで美しいところだなあ！」

¹⁹ 文成公主がチベット入りしたときの唐皇帝は太宗である。

(B7) ʔkʰo-Ø ʔta ʔja la ʔmə-ʔdʰo ʔze:-zə-reʔ-sə reʔ
kho da yar la mi ʔgro zer zin red zer red
 3-[絶] 今 上へ [否]-行く 言う-[過]-[判]-[伝]
 「私はもう（ここから）進まないぞ」と言ったそうです。

(B8) ʔte ʔdʰa ʔza ʔkō dzo-gə ʔze:-na
de rgya bza' kong jo gyis zer na
 それで 文成公主-[能] 言う-[接]
 そこで、文成公主が言うことには、

(B9) ʔtʰoʔ-Ø ʔja la ʔdʰo-ʔgo-reʔ ʔmə tsʰe
khyod yar la ʔgro dgos red mi tshad
 2-[絶] 上へ 行く-[意]-[判] のみならず
 「あなたは（ラサへ）行かなければならないだけでなく」

(B10) ʔla sʰa ʔja la ʔkʰu ʔdʰo-ʔgo-reʔ ʔtə ʔdʰa ʔze:-zə-reʔ-sə reʔ
lha sa yar la khur ʔgro dgos red de ʔdra zer zin red zer red
 ラサ 上へ 携帯する 行く-[意]-[判] あのように 言う-[過]-[判]-[伝]
 「（私が）ラサへ持っていかなければならないのです」のように言ったそうです。

(B11) ʔte ʔtʰo wo-gə ʔze:-na
de jo bo-gyis zer na
 それで ジョウオ-[能] 言う-[接]
 そこで、ジョウオが言うことには、

- (B12) ʔ^ho-da ʔⁿda ʔⁿda ʔ^tciʔ-Ø ʔ^te-Ø ʔ^la ʔ^hgo ʔ^hdzɔ̃-nə-Ø
kho dang ʔdra ʔdra cig te lha sgang bzhengs ni
 3-[共] 同じ 1-[絶] それ-[絶] 塔公 塑像する-[名]-[絶]
 ʔ^hzaʔ-roʔ-fio
bzhag rogs ʔo
 置く-[祈]-[感]
 「私と同じものを塑像して、それを塔公²⁰に置いていってください」

- (B13) ʔ^te ʔ^ho-Ø ʔ^ja la ʔⁿdo-li: ʔ^ze: ʔ^hkaʔ-la
de kho yar la ʔgro lis zer skabs la
 それで 3-[絶] 上へ 行く-[意] 言う 時-[位]
 「そうしたら私は（ラサへ）行きましょう」と言ったので、

- (B14) ʔ^te ʔⁿdza ʔ^hza kō dzo-gə ʔ^ʔa na ʔ^la s^ha-gə ʔ^tɕo wo ʔ^ji zī ʔⁿo ruu-da
de rgya bza' kong jo gyis a na lha sa gyi jo bo yid bzhin nor bu dang
 それで 文成公主-[能] ここ ラサ-[属] ジョウオ イジン・ノルブ-[共]
 ʔⁿda ʔⁿda ʔ^tciʔ-Ø ʔ^hdzɔ̃-nə ta
ʔdra ʔdra cig bzhengs ni da
 同じ 1-[絶] 塑像する-[接]
 そこで文成公主はここでラサのジョウオ・イジン・ノルブと同じものを塑像した
 のち²¹、

- (B15) ʔ^ʔa na ʔ^la ʔ^hgo ʔ^tɕu x^hɔ̃-nə ʔ^hzaʔ-ʔə-reʔ
a na lha sgang jo khang nang bzhag gi red
 ここ 塔公の釈迦牟尼殿-[内] 置く-[状]-[判]
 ここ塔公の釈迦牟尼殿²²に置いていきました。（そして今もここにいます）

²⁰ この物語に描写される出来事が起きる以前に「塔公」という固有名詞は存在しなかったため、この語の挿入は語り手による補充的説明といえる。

²¹ この物語が成立する前にジョウオはラサには存在しなかったため、この部分は語り手による補充説明であるといえる。

²² 図3の右手にある白い建物が釈迦牟尼殿である。

- (B16) ʼte ʼla^hgə ʰtseʔ ʰkaʔ-la-tə ʼtɕo wo-gə ʰkʰa ʈaʔ-ji
de lha sgang slebs skabs la jo bo gyis kha grags yi
 それで 塔公 到着する 時-[位] ジョウオ-[能] 口を開く-[属]
 ʰdʒu^h tsʰɛ:-tə-Ø ʰtʰö-la-nə
rgyu mtshan de mthong la ni
 理由-[定] 考慮する-[接]-[主]
 さて、塔公に到着したとき、ジョウオが口を開いた理由を考慮したら、

- (B17) ʼte ʼla^hga-Ø ʰze:-nə-Ø-tə ʼla-Ø ʰga-we: ʰsʰa tɕʰa-Ø
de lha dga' zer ni de lha dga' ba'i sa cha
 それで ラガ-[絶] 言う-[名]-[絶]-[主] 菩薩-[絶] 愛する-[名.属] ところ-[絶]
 ʃi-na
yin na
 [判]-[接]

ラガというのは、菩薩（ラ）が愛する（ガ）ところであるという意味で、

- (B18) ʼla^hga-Ø ʰze: ʰmī ʰtaʔ-zə-reʔ
lha dga' zer ming rtags zin red
 ラガ-[絶] 言う 名づける-[過]-[判]
 ラガという名前をつけました。

- (B19) ʼla^hgə-Ø ʰma^htsa ʰmī-tə-Ø ʼla^hga-Ø ʰze:-reʔ
lha sgang ma rtsa ming de lha dga' zer red
 塔公-[絶] 本来 名前-[定]-[絶] ラガ-[絶] 言う-[判]
 塔公は本来その名前をラガと言うのです。

- (B20) ʼte ʰtə tsʰoʔ-Ø ʰmā bo ʰpha rə ʰgɛ:-tsʰa ʰkaʔ-la
de dus tshod mang po pha ru rgal tshar skabs la
 それで 時間-[絶] たくさん あちら 過ぎる-[達] 時-[位]
 それから長い時間が過ぎたのち、

- (B21) 'te ʔla^hgɔ̃-Ø ʔze:-nə-Ø ʔp^ha rə ʔ^hdzɯ^hdoʔ-Ø ʔ^hẽ-zə-reʔ
 de lha sgang zer ni pha ru 'gyur ldog then zin red
 それで 塔公-[絶] 言う-[名]-[絶] あちら 変化-[絶] 経る-[過]-[判]
 'mə ts^heʔ 'ma zə ʔla^hga-Ø ʔze:-reʔ
 mi tshad ma gzhi lha dga' zer red
 のみならず そもそも ラガ-[絶] 言う-[判]
 塔公というのは、変化を経た（名前）であるだけでなく、そもそもラガと言うの
 です。

- (B22) ʔla-Ø ʔ^hga-ji ʔ^hsa tɕ^ha-Ø ʔjiʔ-kə ʔ^hdzɯ^hts^hɛ:-te-Ø
 lha dga' yi sa cha yid kyis rgyu mtshan de
 菩薩-[絶] 愛する-[属] ところ-[絶] 意味-[能] 理由-[定]
 ʔji-tɕɛ-tə-Ø 'te ʔla^hga-Ø ʔze:-reʔ-ta nə
 yin rkyen de de lha dga' zer red da ni
 [判]-[名]-[絶]-[定] それで ラガ-[絶] 言う-[判]-[接]
 菩薩の愛するところという意味があるのでラガと言うのですが、

- (B23) ʔkə tsa p^ha ʔla^hgɔ̃-Ø ʔze:-nə 'mĩ-Ø ʔ^hdzɯ^h-zə-reʔ
 ki tsa pha lha sgang zer ni ming 'gyur zin red
 のちに 塔公-[絶] 言う-[名] 名前-[絶] 変わる-[過]-[判]
 のちに塔公という名前に変わったのです。

2.2 物語の和訳²³

『菩薩の愛する地・塔公』

昔々、文成公主がチベットへ迎えられたとき、唐の皇帝太宗が彼女に1体のジョウオ（釈迦牟尼像）を贈りました。そこで、文成公主はそのジョウオをラサに持っていこうと思ったそう。彼女が塔公を通りかかったときのこと、ジョウオが口を開いて言ったそう。な：「ここはとても幸せで美しいところだなあ！私はもうここから進まないぞ」と。そこで文成公主が言ったそう：「あなたはラサへ行かなければならないだけでなく、私があなをラサへ持っていかなければならないのです」と。するとジョウオは「ならば私と同じものを塑像して、それを塔公に置いていってください。そうしたら私はラサへ行きましょう」と言ったので、文成公主はここでラサのジョウオ・イジン・ノルブと同じものを塑像したのち、ここ塔公の釈迦牟尼殿に置いていきました。そして今もここにあるのです。

²³ 本稿末尾にチベット語版（文語版、口語原文版、口語改訂版）を添える。

さて、ジョウォが塔公に到着したとき口を開いた理由を思い起こすと、「ラガ[Lha-dga']」という名前は菩薩（ラ[lha]）が愛する（ガ[dga']）ところという意味であるので、「ラガ」と名づけました。塔公はもともとラガと言うのです。それから長い時間が過ぎたのち、塔公というのは、変化を経てこの名前になったのですが、そもそもラガと言いました。菩薩の愛するところという意味があるのでラガと言うのですが、のちに塔公という名前に変わったのです。

3 『菩薩の愛する地・塔公』 音声・文法の注釈

2節で提示した物語は、その内容および語りの言語の特徴によって2段に分かれる。(B1)から(B15)までが1段、(B16)から(B23)までがもう1段となる。前者は伝説の本体であり、後者がそれに対する解釈である。両者では語りの言語の特徴が異なっている。もっとも明瞭な差異は、前者には伝聞の接尾辞/-sə reʔ/が現れ、後者には現れない点である。加えて、後者には文語に直接影響を受けたと考えられる表現や語彙が認められる。

以下、文の通し番号に基づいてそれぞれ注釈を与えていく。

(B1)

Lhagang 方言において、物語の導入句としては /^hna ma ^hna/ 「昔々」が用いられる。このような時間を表す句に位格標識を加えて /^hna ma ^hna-la/ 「昔々」のようにすることもできるし、位格標識を加えなくてもよい。この /-la/ という格標識は位置、方向を表す格標識と同一の形式であり、すべて位格と呼ぶ。この導入句の実際の発音は、第3音節が特別に強調され、[^hna ma ^hna:] と聞こえる。

/ja la/ 「上へ」はこの物語を通して何度も出現するが、一貫してラサの方向を示す時に用いられる。

/^hde ʃ/ 「迎える」という語は、対応する蔵文 *gdan drangs* と音対応の面から見ると、第1音節の末尾鼻音が脱落しているという点について、Lhagang 方言の特徴であるとみなすことができる。この語の発音は、それがどの言語層（すなわち Lhagang 方言の A 類もしくは B 類）に属していても、第1音節の末尾鼻音は脱落することになる。

(B1)には「迎える」という動詞の行為者が現れていない。物語の背景を踏まえれば、文成公主は迎え入れられる側であり、迎える側はチベットの王ソンツェン・ガンポである²⁴。動詞「迎える」は他動詞であり、その行為者は能格でもって表されるはずである。(B1)の /^hdza ^hza kō dzo/ 「文成公主」は絶対格であり、文法構造からみれば、文成公主は行為者として解釈されることはない。

時間表現を形成する /^hkaʔ-la/ 「～の時」の直前の動詞は TAM 標識を伴わなくてもよい。Lhagang 方言の動詞は、いくつかの動詞²⁵を除けば、すべて「三時一式（現在・過去・未

²⁴ 第4節を参照。

²⁵ たとえば「行く」、「来る」など。

来・命令)」の形態変化が存在せず、一般的に動詞に TAM 標識と判断動詞が後続することによって、TAM を表現する。

(B2)

他動詞の行為者は一般に能格標示²⁶され、被動者は無標である。Lhagang 方言では、能格は基本的に/-gə/という標識を付加することによって表示される。

Lhagang 方言の 3 人称代名詞は/kʰo/しかなく、男女の区別をしない。

名詞に後続する数詞「1」は、その発音が/ʰtɕi/ではなく/tɕi/となり、「ある～」の意味で用いられる。ただし(B2)の中では「1つの」の意味で用いられる。

動詞の接尾辞/-zə/は過去を表す場合に用いられ、一般的に判断動詞/-jī/または/-re/が後続する必要がある。

(B3)

この文の初頭に現れる/te/は、この物語の中に何度も現れ、主な意味として「それで、そこで」があげられる。物語を語るときにしばしば出現する要素で、一般的に文の中で文法的機能を持っているとは言えず、フィラーとしての機能もある。実際の発音ではその母音が非常に長く発音される場合が多く、[te:]のようになる。

名詞句/tɕo wo-tə-Ø-na/の各要素の配列は次のようである：中心語（名詞）＋定性標識＋格標識＋主題標識。これらの順序は変更不可能である。

この文が示すのは、動詞句が「他動詞＋移動動詞」となっている場合、その主語は能格で表示されうるということである。Lhagang 方言では、自動詞の主語が能格標示を受けることは一般的に認められない。また、動詞/ʰsā/「思う」の主語もまた能格標示を必要としない。

動詞句/kʰu ʰdo-ʰgo/「持っていく」は、文法上動詞/ʰsā/「思う」の目的語として分析される。この文の構造が示すのは、ある動詞が別の動詞の目的語となる場合、Lhagang 方言では何ら接辞を必要としないということである。

この文には格標識を伴わない地名「ラサ」が出てくるが、この種の用法は Lhagang 方言において頻繁に認められ、「音形式のない位格」と解釈する。この現象は地名や時間などを示す名詞に現れる。

(B3)の最後に伝聞標識が現れているが、これは発話者がこの文の内容を未確認のことでありと表明している。これに対し、1つ前の(B2)の発話には伝聞標識が現れていないので、(B2)の発話は発話者にとって確実なことであることを示している。

²⁶ チベット系諸言語の中には、能格標示を行うか行わないかの条件として、動詞の「制御可能/制御不可能」の対立によって決まるというものがある。ただし Lhagang 方言の場合、この条件が必要とされず、ただ動詞が他動詞か否かを考えればよい。

(B4)

この物語の中で、(B4)において初めて /l̥a̠ ʰgɔ/ 「塔公」という語が現れる。ここでの発音は Lhagang-B 方言の発音によっており、音節末鼻音を欠いている。物語の後のほうに音節末鼻音要素（鼻母音）を伴う /l̥a̠ ʰgɔ̃/ の形式も現れるが、これは Lhagang-A 方言の発音に基づいており、両者は異なる言語層に属している（4.3 参照）。

この文の「塔公」もまた格標識を欠いている。しかしながら、構文上動詞 /ʰtseʔ/ 「到着する」の目的語ではないため、(B3)文の中の「ラサ」と同じく音形式を伴わない位格と考える。

動詞 /ʰtseʔ/ 「到着する」の初頭子音は蔵文 *sl* の対応形式であるが、この音対応は Lhagang 方言の特徴である。

(B5)

現地のチベット語話者は、動詞 /kʰa t̥aʔ/ を Lhagang 方言に特有の口語形式と考えている。その第1音節は蔵文 *kha* 「口」と同源であると考えられるが、第2音節は文語には認められない。しかしいくつかのアムドチベット語、たとえば rMachu（瑪曲）方言などに、類似の口語形式が存在し、/kʰa t̥ək/ といった形式が認められる²⁷。音形式に基づけば、おそらく (B5) の分析時に添えた蔵文形式 *kha grags* に対応しうるだろう。

(B6)

Lhagang 方言の名詞句の構造は次のようである：中心語（名詞）＋形容詞＋副詞＋数詞／指示詞。(B6)文の構造は、/ʰt̥ciʔ/ 「ある～」の存在により、/ʰt̥ci po ʰt̥aʔ mo/ 「非常に幸せな」が /sʰa t̥ʰa/ 「ところ」の修飾要素であると理解できる。

形容詞の程度を強調する副詞 /ʰt̥aʔ mo/ 「とても」は Derge（徳格）方言などカムチベット語北路方言群においても用いられる地域語であり（王詩文 2012:136）、蔵文では *skrag mo* と書ける。

名詞句の最後の位置を占める数詞「1」は、/ʰt̥ciʔ/ のように、声調が上昇調となる。蔵文との対応関係から見ると、蔵文無声無気音字に由来する字を初頭子音とするものが上昇調をとるのは特殊である。

(B7)

この文の中で、/m̥ə-ʱd̥o/ 「行かない」より前の部分はジョウォが話した部分の引用であるが、1人称で現れるべきところが3人称で現れている。物語の語りにおける対話部分の中で1人称であるところが3人称によって置き換えられているのは Lhagang 方言に特有の構造なのではなく、語り手個人の習慣による。

引用部分の最後を占める動詞句 /m̥ə-ʱd̥o/ 「行かない」と引用を示す動詞 /ze/ 「言う」の間にはいかなる標識も必要とされない。

²⁷ この情報は周毛草氏（中国社会科学院民族所）による。

(B8)

動詞/ˈze/「言う」は他動詞であるので、行為者は能格で表示される。(B11)の例も同様である。

この文の最後にある/-na/は一般的に接続詞として用いられるが、引用を始めるときの標識としても用いられ、ここでの用法は後者のものである。

/-na/の直前には伝聞の標示がないが、(B10)の最後に現れる。

(B9)

この文のように、自動詞の主語は基本的に能格標示をすることができない。

意思未来と必然性を表す接辞/ˈgo/の後ろには判断動詞を付加することができる。

(B10)

この文は行為者も被動者も欠いているが、文脈に基づけば、行為者は「私（＝文成公主）」で、被動者は「あなた（＝ジョウオ）」であろう。

/tə ˈda/「あのよう」は直前までの内容が引用部分であることを指示している。

(B12)

この文はジョウオによる語りの引用部分であり、文中に現れる3人称代名詞は「私（＝ジョウオ）」と解釈できる。(B7)を参考にすると、Lhagang方言の語りの中の会話部分には1人称を用いない傾向にあると分析することができる。

Lhagang方言において、/-da/の機能は文法格の1つとしての共格である。形容詞/ˈda ˈda/「同じである」が共格を要求するといえる。

/kʰo-da ˈda ˈda ˈtci/の部分は名詞化標識を伴わない名詞句であり、動詞/ˈza/「置く」の被動者に相当する。

(B12)の文中に現れる/te/は、その前にポーズが置かれており、指示代名詞として機能する。この場合、直前の名詞句を指示している。

動詞/ˈdzɔ/「塑像する」はLhagang方言の口語形式で、完全に文語に対応する語は認められないが、藏文 *bzhengs* 「塑像する（敬語）」に非常によく似ている。

(B13)

この文には行為者の積極的意思を表す動詞接辞/-li:/が用いられている。これは主語（ジョウオ）の決心を表しており、この場合、もう1つの意思未来の接辞/ˈgo/を用いることはできない。なぜなら、必要性を示す外因がないからである。

(B14)

固有名詞/*ʃi z̥i ˈno ru*/「イジン・ノルブ」の発音の中で、第1・第2音節は Lhagang-B 方言に属する発音で、第3・第4音節は Lhagang 方言 (A 類) に属する発音である。後者はアムドチベット語の発音とほぼ同じであるが、前者のアムドチベット語 Yichang (依羌) 方言による発音は *ʃi ˈzin*/となる。

ʔa na/「ここ」は物語の中の参照点を指示しているのではなく、直接語り手のいる地点、すなわち塔公を指示している。(B15)にも同様の用法が認められる。

(B14)中の属格は *-gə*/で、能格標識と一致する。Lhagang 方言の属格には、ほかに *-ji*/ (B16、B22 など) という形式もあり、使用環境から考えると、前者は名詞に後続し、後者は動詞に後続するものといえる。

この文の最後の接続詞 *-nə ta*/は「～の後、そして」を意味し、またそれに先行する動詞は TAM 標示をする必要がない。

(B15)

この文中の *ʔt̚cu x̥ʰɔ*/「釈迦牟尼殿」の発音は特殊で、蔵文 *jo khang*²⁸の対応形式であるとはいえ、第2音節の初頭子音について本来の有気閉鎖音が有気摩擦音になっている。この現象は Lhagang 方言では珍しい。

(B16)

この文は、動詞語幹の後ろに直接属格標識 *-ji*/が付加されることを示している。

ʔk̚d̚-la-tə/のうちの *-tə*/は主題標識であるが、ここではポーズを置くということを示しているにとどまる。

この文の末尾にある *ʔn̥t̚ö-la-nə*/の中の *-la*/は位格標識ではなく、文と文を並列につなぐ接続詞である。

(B17)

名詞化接辞 *-nə*/の後ろには、さらに主題標識 *-tə*/が付加されうる。これは、名詞化接辞が名詞句を形成するため、さらに加えて絶対格の格標示も加えられる必要がある。格標示の後ろが主題標識の位置である。

ʔga-we/と蔵文 *dga' ba'i* は完全に対応する。ただし、この口語形式、特に動詞語幹に *ba* 接辞を加えかつ母音の音質を変えることによって格標示を行う点は、文語の語形成とその読書音に属するものである。というのも、(B16)のように、Lhagang 方言では動詞語幹に直接属格標識を付加できるからである。しかしながら、物語の文脈から考えて、この文は地名の来歴を述べる箇所であり、語り手の意識の中に文語形式が想定された可能性が高い。同一の表現が(B22)にも現れるが、そこでは動詞語幹 *ʔga*/に直接属格標識が付加されている。

²⁸ 塔公寺の文献の中において、この語は *jo bo khang* とつづられている。

(B18)

この文の語釈には2つの動詞、すなわち/ʒe:/「言う」と/ˈmĩ ˈtəʔ/「名づける」とが存在するが、両者の間には何の標識も付加されていない。しかし文の構成の解釈としては、第1の動詞は何の標識を付加することなく直接後続の動詞句の一部/ˈmĩ/「名前」を修飾していると考え、全体の意味では「～という名前」となっていると考える。

(B19)

この文に現れる/ˈma ˈtsa/「本来」は、(B18)のように後続の名詞/ˈmĩ/を修飾しているわけではない。というのも、単純形容詞は必ず被修飾名詞に後続しなければならないからである。

文頭の「塔公」は主題標識を伴っていないものの、文中の役割としては主題であり、文の主語ではない。主語は/ˈmĩ-tə/「あの名前」である。

(B20)

ʌpʰa rə/は特定の場所を指示しているのではない。この文中では具体的な「ところ」の意味はなく、単に象徴的に用いられているだけである。直訳すれば、次のようになるろう：「それから多くの時間があちらへ過ぎていったとき」

(B21)

この文には2つの動詞/ˈtɛ/「存在する」と/ʒe:/「言う」があるが、これらの主語は1つで、ʌʎa ˈgõ ˈzei-nə/「塔公というの(=名称)」である。

動詞/ˈdzɯ ˈdoʔ ˈtɛ/「変化する」はLhagang方言に特有の口語である。

(B22)

(B16)と同じく、属格は直接動詞語幹に後続できる。ʌʎa ˈga-ji ˈsʰa tɕʰa/「菩薩の愛した地」と/ʎiʔ/「意味」は並列関係であり、/ʎiʔ-kə/の能格は原因を示す用法として用いられており、また/ˈdzɯ ˈtsʰe:/「理由」と並列関係を構成する。

名詞/ʎiʔ/「意味」は文語であり、口語としてはあまり用いられない。

/ʎi-tɕɛ/「～であるため」もまた文語であり、特に原因を表す名詞化接辞/-tɕɛ/は口語としては非常に珍しい。

(B23)

ʌkə tsa pʰa/「のちに」はLhagang方言に特有の口語形式であり、対応する蔵文形式はこの発音に基づいて書かれている。Lhagang方言において、ʌkə tsa/は単独で「後ろ、あと」を意味する。第3音節/pʰa/は蔵文 *phar*「あそこ」と対応する可能性がある。さらなる研究が必要である。

4 『菩薩の愛する地・塔公』物語の版の異同と関連する問題

口承によって伝えられてきていることに起因し、物語の内容はほぼ同じではあるものの、版によって細かい部分でさまざまな差異が生じている。Sonam Wangmo (2013:32-51)はこの物語にこめられた意味を詳細に検討し、木雅地域の関連する物語について紹介と分析を行っている。その中で、Sonam Wangmo (2013:34-40)はこの物語に関連する2種類の文語による記録が存在することを紹介した。それらは 1) *Yang-gsang mkha'-'gro'i thugs-kyi ti-ka-las/lHa-dga' ring-mos gnas-kyi dkar-chag* (『塔公寺誌目録』)、2) *Bal lHa-sgang gi gNas-bstod* (『塔公地方頌』) で、それぞれ塔公寺で継承されてきたものである。この2種の文献はまた Karma rGyal-mtshan (2002:288-314)にも収録されている²⁹。ただし、これら2種の文献と民間に伝わる物語では伝承の文脈が異なる³⁰ため、ここでは取り扱わない。

4.1 塔公村に伝わるその他の版

1.2 で述べたように、2節で記述・分析した物語は「短編版」であり、それ以外に「長編版」もある。長編版の内容は一般にソンツェン・ガンポ[Srong-btsan sGam-po]が唐の太宗に娘の文成公主を降嫁させる要求を出すくんだりから始まり、長安でいかに太宗に同意させるか、また文成公主がチベット入りする道中どのような出来事があったかなどの内容があり、物語の最終部分になって初めて直接塔公と関係のある描写になる³¹。一方で、2節で掲げた物語と対比すると、長編版の描写は詳細であるため、まず筆者が収集した2編の比較的詳しい描写のある塔公と文成公主にかかわる物語のくだりを紹介していく。

まず1つめは塔公のガラ・ジャツェ[mGar-ra 'Jags-tshe]さん³²の口述に基づいて整理したものである³³：

「西暦 641 年、吐蕃の国王ソンツェン・ガンポは名をはせた大臣ガル・トンツェン [mGar sTong-btsan]を唐に派遣し、唐の太宗に文成公主の降嫁を要請した。太宗は吐蕃国の法整備が厳格であり、王から民衆まで力を持ち、国力が強盛であること見て

²⁹ ただし、2つめの文献名は *dPal-dang yon-tan-gyis mngon par mtho-ba BA lHa-sgang-gi gnas-la bstod-pa dung-dkar skye-ba lnga-pa'i rang-sgra dad-pa'i 'khri-shing 'od-kyi zla-zhun* となっている (Karma rGyal-mtshan 2002: 301)。また、Epstein、彭文斌(2013:120)にも同様の文献について言及があるが、名称が *Bā lha khang gi gnas bstod* となっており、つづりが異なっている。

³⁰ ただし、これら2種の文献の記述によれば、文成公主がチベット入りするとき、塔公にジョウオのために塔公寺を建てた旨の簡潔な記述があり (Sonam Wangmo 2013:34-40 ; Karma rGyal-mtshan 2002:288-314)、歴史背景については文献と口承物語とで一致する。

³¹ それゆえ、現地の人々は長編版を蔵文で *lo-rgyus* と呼ばれる歴史伝説であると考えており、短編版もその歴史伝説の一部であるとする。史衛国(2013:52)は次のように述べている：“チベット人が用いる *Lo-rgyus* という語は、一般的にいうと、「歴史」と訳しうる。口頭伝承の情景において、*Lo-rgyus* は必ず一種の「民間に伝わる当地の歴史」と理解しなければならない。” (筆者訳)

³² 彼は現地を代表する知識の豊富な老人として知られていたが、不幸にも2013年6月に逝去した。

³³ この部分の記録は本稿第2著者による。また、Sonam Wangmo (2013:41)にも記述がある。

取った。そこで吐蕃と和睦を結ぶためにこの要請を承諾し、娘の文成公主をソンツェン・ガンポに嫁がせることとし、特別に礼部尚書江夏王李道宗に公主のチベット入りの護送を命じた。言い伝えによれば、文成公主が長安からチベットに向かう途中、嫁入り道具として携えていた12歳の釈迦牟尼等身像を美しい塔公草原まで運んだ時、突然重たくなったので、馬もヤクも運ぶことができなくなった。このとき仏像が口を開いて『この土地は美しすぎる。私はここにとどまりたい』と言った。公主はこの仏像をチベットに持っていかなければならないため、従者の職人に全く同じ仏像を作るよう命じ、伝説によると、その当日職人はその半分を塑像し、その夜仏像本体が自然と完成したという。次の日、新しい仏像を塔公に残すため、あわせて寺院を立て、その仏像をその寺に安置した。これが以降の塔公寺であり、『菩薩の愛する地』という表現もここに由来する。これ以降、塔公寺はカム地域で有名になった。」

このほかにも、現地の老人が筆者に塔公寺の後ろにある108つの塔（図6）もその年文成公主が選んだものであると語ってくれた。

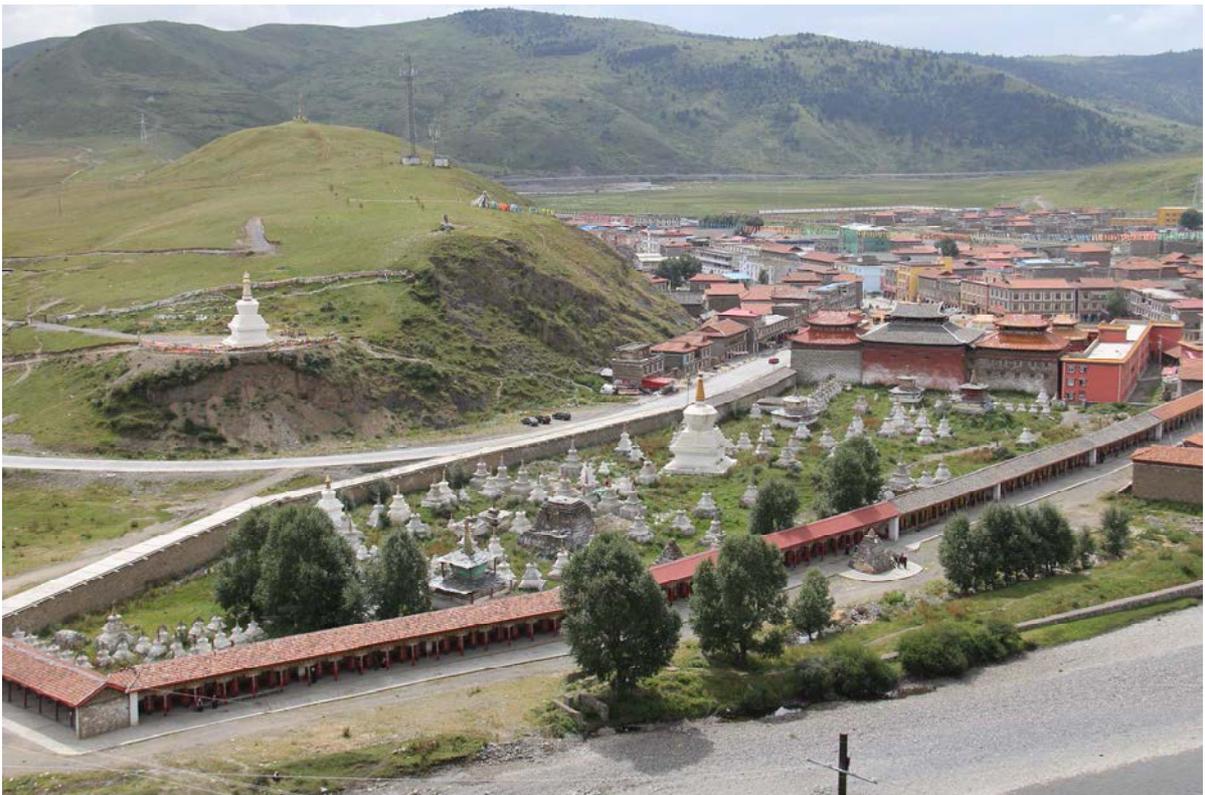


図6：塔公寺後方の仏塔（2012年）

四郎翁姆 撮影

2 つめは塔公寺釈迦牟尼殿の前に掲示してある紹介文である³⁴：

「历史授记公元 641 年大唐文成公主与藏王松赞干布联姻，为了加强民族团结，巩固边疆。唐太宗把文成公主许配给藏王松赞干布时，并把一尊释迦牟尼佛（藏语称“觉悟”）12 岁的等身佛像赐给公主作为嫁妆。（... 中略...）。文成公主进藏经过塔公的时候，在此休息，开始要启程的时候奇迹的事情就发生了，这尊觉沃佛（12 岁的等身像）竟然像在地上生了根一样，再也无法移动半步。就在众人千方百计要拉动这尊佛像的时候，佛像竟自己开口说：这里是一块吉祥之地是诸佛菩萨欢喜的圣地，不愿在向前行。但由于佛像乃唐太宗赠送给藏王松赞干布的，必须要请往拉萨。贤明的文成公主与智慧的禄东赞当即决定派已降服了的妖魔鬼怪去圣地取用圣泥，圣水后按照原貌复制了一尊。

历史记载：在复制过程中，当天复制完下半身，而后把圣泥圣水都堆在了复制完下半身的前面，第二天早晨来复制上半身的时候。谁也没有料到，没复制完的上半身一夜之间竟自然生成，诸佛菩萨虚空中现身，加持，沐浴此复制的佛像，虚空还传来美妙动听的法器音乐，降下了花雨等瑞相，原貌才得以顺利启程（现供奉在拉萨大昭寺）。」

「西暦 641 年、唐の文成公主とチベットの王ソンツェン・ガンポが民族の団結と辺境を強固にするため婚姻関係を結んだ。唐の太宗は文成公主をソンツェン・ガンポに嫁がせるとき、釈迦牟尼仏（チベット語で「ジョウオ」）の 12 歳の等身像を嫁入り道具として持たせた。（... 中略...）。文成公主がチベット入りするとき塔公を通りがかった時にここで休憩を取り、出発しようとしたときに奇跡的な出来事が起こった。このジョウオ（12 歳の等身像）がまるで地に根を下ろしたかのように、半歩も動かなくなってしまうのである。人々がさまざま方策を尽くしてこの仏像を動かそうとしたとき、仏像が自ら口を開いて「ここは吉祥の地、諸仏・菩薩の喜ぶ聖地であるから、これより先には行きたくない」と言ったのである。ところが仏像は唐の太宗がチベットの王ソンツェン・ガンポに送るものであるから、必ずラサに向かうように請わなければならない。賢明な文成公主と知恵のあるガル・トンツェンはすぐにすでに降伏させた妖魔妖怪に命じて聖地に聖土と聖水を取りに行かせたのち、もともとの仏像にならって 1 体を複製した。

³⁴ 2014 年 2 月に実際に確認した。この文章には作者が記されていない。ただし筆者が現地への僧に聞いたところ、原版はカンド・イエシェ・ツォジェ[mKha-'gro Ye-shes mTsho-rgyal]の埋蔵宝典によるという。筆者の入手した版はラマのサンジェ[Sangs-rgyas]が原版から圧縮した版である。Sonam Wangmo (2013:32-51)は僧と民間の間で塔公の歴史に関する理解は異なっており、僧の理解は一般に上に述べた 2 種の文献によっている、と述べているため、寺院にこの物語が掲げられているのは興味深いことであるといえる。まず以下に漢語原版を掲げ、そののち和訳を付す。原版の漢字表記ならびに句読点はそのまま維持する。

歴史が記すところには次のようにある：複製の過程において、当日は下半身を完成させ、そののち聖土と聖水を複製した下半身の前に積んでおいた。2日目の朝上半身を複製しようとやってきたところ、誰もが予想しなかったことに、複製し終えていなかった上半身は一夜のうちに自然に成り上がっており、諸仏・菩薩が虚空より姿を現し、この複製した仏像を加持、沐浴したうえ、空からは妙なる聞きよい音楽が聞こえ、花雨が降るなど縁起の良いことが起こった。それでももとの仏像は問題なく出発することになった（現在はラサの大昭寺に奉納されている）。」

これらの内容は、本稿で分析した物語の中の(B1)-(B15)とが対応するだけでなく、細かい部分が非常に明確になっている³⁵。加えてガラ・ジャツェ版中の「『菩薩の愛する地』という表現もここに由来する」という部分が本稿の(B16)-(B23)の地名の解釈を行う部分と対応する。

上に示した2種の物語の背景は大部分似てはいるが、異なっている部分も少なくない。これら2種の物語と2節に記述した物語の版の間に認められるもっとも大きな差異はジョウォと文成公主の間の対話の有無とジョウォが口にした発話の内容、すなわち(B9)、(B10)における「文成公主のジョウォに対する返事」の部分と(B12)の「ジョウォが自ら文成公主に複製するようお願い出た」という部分であり、これらは直前の2種の物語には含まれていない。筆者は調査中に見出したことには、塔公で流布している物語には確かにこの差異が認められ、それゆえ2種の版が存在するといえる。さらに、ジョウォが「重くなった」または「根が生えたよう」といった表現の有無、「私は行きたくない」と「私はとどまりたい」といった表現方法などについても異なりが認められる。特に後者の表現方法の問題は比較的重要であり、4.2でまた議論することにする。

このほかにも興味深いことがある。長田(2002³:228)が塔公を紹介する項目で次のように述べている：

「釈迦牟尼像が『ここ(=塔公³⁶)に置いていってくれ』と言ったそうな——少なくとも地元ではそういうことになっているのである。』

しかし筆者が確認した限りでは、塔公にはこのくんだりと全く対応する物語は伝えられておらず、ただ(B12)のようにジョウォが「私と全く同じものをここに置いていくように」と言った版のみである。筆者が推測するに、長田(2002³:228)における記述はおそらく(B12)の

³⁵ 本稿では歴史上の事情について議論するつもりはないが、次の観点は言及に値する。上に述べた2種の版はいずれも西暦641年に文成公主がチベット入りしたと述べているが、山口(1983:370-387, 576-648)の研究によれば、文成公主がチベット入りした年は西暦640年で、文成公主を護送したのは唐の江夏王道宗で(ガラ・ジャツェ版と一致)、ガル・トンツェンは公主がチベット入りするとき長安にとどまり、公主とは行動を共にしなかったという。少なくとも歴史文献の詳細な研究によって得られた結論が山口(1983)の観点ではあるが、民間伝承の物語の中にはしばしばこれとは異なる描写が認められる。

³⁶ 本稿筆者による注。

部分の過度な簡略版ではないだろうか。しかしながら、もう1つ別の考え方もあり、それは塔公村以外で流布している版の影響である。次にこれについて述べていく。

4.2 塔公村以外に伝わる版

本稿で扱った物語は塔公郷のみならず、塔公郷と隣接する道孚[rTa'u]県八美鎮、色卡[gSer-kha]郷、協徳[Zhi-bde]郷³⁷、および康定県木雅地区にも流布している³⁸。その中で、道孚県に伝わる物語は塔公村のものとはほぼ一致するが、新都橋[Ra-rnga-kha]鎮に伝わる物語はこれとは異なった特徴がある。たとえば、新都橋鎮東俄洛[mGo-log-thog]村に伝わる版はまったく異なり、おおよその内容は次のようである：

「文成公主が多くの嫁入り道具を携えてチベット入りする途上、塔公を通りかかった時に、このあたりに疫病が蔓延し、多くの子供が病気に苦しんでいるのに気づいた。この状況に際し、彼女が携えていたいくつかの仏像のうちの1体が突然口を開いて話し始めた：『私はもう先へ進まず、ここにとどまり病を治そう』と。このとき文成公主は口を開いた仏像をここに置いていくことを決め、ここに残された仏像が今の塔公寺にあるジョウオである。」

この版は確かに塔公郷の版と背景が似てはいるが、仏像が口を開いて「私はもう先へ行かない³⁹」という段以外は、全く異なるといっても過言ではない。東俄洛村の版の重要な記述は次のようである：口を開いた仏像が現在の塔公寺のジョウオであり、かつ文成公主が

³⁷ 協徳郷にある惠遠寺[mGar-thar dGon]のチベット名に含まれる *mGar* という語はガル・トンツェンの氏族名 *mGar* に由来し、文成公主がチベット入りするときにガル・トンツェンもこの地を訪れたという当地の伝説に基づいている。Zla-ba sGrol-ma (2014:5-6)も参照。

³⁸ 一方で、筆者はこの物語が丹巴県の各郷には伝わっていないことを確認した。道孚県城などの地区でも本来は流布していなかったという。ところが塔公のジョウオの影響力が非常に大きいため、現在では多くの人々がこの物語を聞き知っている。現在の道孚県においてこの物語がそもそも流布していたのは、旧乾寧県（道孚県と合併済み）のチベット語分布地区とはほぼ一致する。

³⁹ この表現の Rangakha/mGolothog（東俄洛）方言による形式は /ŋa ʼmə-ʼdɔ/ 「私は行かない」となっている。東俄洛村の版では、仏像は確かに「私は行かない」と述べたことになっている。というのも、塔公のジョウオの別名を「先へ行こうとしなかった仏像」と言うからである。塔公村の版においてジョウオが話した内容には次のような3つの差異がある：「私は行かない」（本稿で訳注を与えた版および塔公寺に掲示されている版）、「私はここにとどまろう」（ガラ・ジャツェ版；Sonam Wangmo 2013:41 参照）、「私は行かず、ここにとどまろう」（本稿では紹介していない長編版）。ほかに、塔公村の版ではジョウオが口を開いた原因は塔公の風景が美しいからであり、それ以外の描写がある版は未見である。Epstein、彭文斌(2013:120)もまたこのくだりに触れ、「ジョウオは（塔公という）吉祥の地によって引き寄せられ、先に進むことを拒んだ」ということを述べている。

複数の仏像を携えていた⁴⁰。言い換えれば、文成公主がジョウオを複製したというくだりを欠いているということになる。

先行研究の中で、Warner (2011:252)は塔公寺のジョウオが唐の太宗が贈った1体であり、ラサの大昭寺のジョウオが複製されたものであると述べている。この種の物語は筆者が収集した物語のさまざまな版の中には見られない。このため、筆者はこの語りはおそらく東俄洛村の版も含めた多数の版の物語をまとめて再編した版に基づいていて、ムニャ地域で口承により伝えられた版ではない可能性が高いと推測する⁴¹。長田(2002³:228)が記述している物語もまた東俄洛村の版に影響を受けて成立したものである可能性がある。

4.3 地名「塔公」の由来について

以上で議論した問題は、主に本稿で紹介した物語の中の(B1)～(B15)の内容とかかわっている。ここでは(B16)～(B23)の内容と他の版の記述について述べていきたい。

4.1 で述べたように、ガラ・ジャツェ版の中には「『菩薩の愛する地』という表現もここに由来する」という段が含まれている。ただし、短編版の(B16)～(B23)のような詳しい説明はない。民間に伝わる物語の中で、「塔公」という名称はまず初めにジョウオが塔公に到着したときに口を開いたことによって *Lha-dga'* 「菩薩の愛する地」という名称が成立し、のちにゆっくりと *Lha-sgang* となり、その音訳として「塔公」と呼ばれるようになった、とされている。ガラ・ジャツェ版の内容に基づくならば、この版もまた短編版と同じ地名の由来を支持しているものといえる。それでは、*Lha-sgang* の第2音節の意味は一般的な蔵文 *sgang* の語義「小高い丘、高地」であるのか、またはそれ以外の特別な意味を持っているのだろうか？筆者が収集した長編版もまた *Lha-sgang* の由来を述べており、その第2音節は木雅熱崗 *Mi-nyag Rab-sgang*⁴²の最終音節に由来するといひ⁴³、*Lha-sgang* の含意は「木雅熱崗にある菩薩の愛する地」となる。

この説明は民間の伝承にのみ存在し、先に言及した2種の文献 (*Yang-gsang mkha'-'gro'i thugs-kyi ti-ka-las/ lHa-dga' ring-mos gnas-kyi dkar-chag* と *Bal lHa-sgang gi gNas-bstod*) の記述とは異にする。*Yang-gsang mkha'-'gro'i thugs-kyi ti-ka-las/ lHa-dga' ring-mos gnas-kyi dkar-chag* の記述では、最初に *mTsho-lung* 「湖の谷」という名称があり、のちに *Lha-lung* 「菩薩の谷」(7世紀)、*Lha-dga'* 「菩薩の愛する地」(8世紀)といった名称が出現した (Sonam

⁴⁰ 東俄洛村の版では、口を開いた仏像は塔公郷で流布している版の言うような12歳の釈迦牟尼等身像ではなく、別の1体であるという。12歳の釈迦牟尼等身像は無事にラサまで運ばれ、大昭寺に奉納されたという。

⁴¹ 言語学的な目的で分析対象とする物語については、口承の伝説とされるものが実際に長きにわたって口承されたものであるか語り手が口承に基づいて新たに構成した「新作」であるかを考慮する必要性はないかもしれない。ところが現地の言語文化(無形文化遺産；漢語では「非物质文化遗产」)を記録し保存していく対象として見るとき、この問題は議論される必要がある。

⁴² 長編版の中において、木雅熱崗はしばしば *Mi-nyag Rab-sgang Phyug-mo* 「豊かな木雅熱崗」と呼ばれる。

⁴³ Sonam Wangmo (2013:49)もまた同様の解釈を提示している。

Wangmo 2013:34-38)。塔公寺の僧たちは、*Lha-sgang* という名は文献に記述されているように、もともとは *Lha-dga'* であったと考えている。ただし文献の中に、のちに *Lha-sgang* に変化した説明は存在しない。

現在のところ、村の名称も寺院の名称も蔵文では *Lha-sgang* と書かれている。ただし口承の伝説でも文献の記述でも *Lha-dga'* がもともとの名称であったとされている。これら両者の形式の関係について、Suzuki & Sonam Wangmo (2015) は 1 つの仮説を提示している。それは、Lhagang 方言は末尾鼻音が脱落する傾向にあるために、*Lha-sgang* と *Lha-dga'* の間の発音が非常に近くなったということである。この状況は 2 節で紹介した物語それ自体の中にも見て取ることができる。短編版の物語の中で、*Lha-sgang* と対応する形式は 7 回現れるが、そのうち 4 回が鼻音成分を含まない /l̥a 'gɔ/ (B4、B12、B15、B16) である一方、残りの 3 回が鼻音成分を伴う /l̥a 'gɔ̃/ (B19、B21、B23) である。前者は Lhagang 方言 (B 類) の発音であり、後者は Lhagang 方言 (A 類) の発音である。後者の出現状況を考えれば、すべて塔公の地名にかかわる箇所であり、そのほかにも (B16)~(B23) は多くの点で文語形式と似通った表現がある (3 節参照)。

音節末尾鼻音の有無が以上のように出現するので、Lhagang 方言の現状から推測するに、この方言の歴史上ある時期に *Lha-sgang* と *Lha-dga'* の交差が起きてしまった可能性が高い。この種の解釈の可能性は、ほかの現象からも支持されうる。塔公村周辺のアムドチベット語の中で、Yichang 方言と gSerkha (色卡) 方言にも類似の音声現象が認められる。2 音節語の第 2 音節に末尾鼻音を伴う例において、特に発話が早い場合には、発音上末尾鼻音が失われることがあり、たとえば *Lha-sgang* の本来の音韻表記では /l̥a 'gan/ (Yichang 方言)、/l̥a 'gæn/ (gSerkha 方言) となるけれども、[l̥a 'gã]、[l̥a 'ga]、[l̥a 'gã̃]、[l̥a 'gæ̃] のような発音も聞くことができる。

以上に述べた現象に基づいて、Minyag Rabgang 方言群に属する Lhagang 方言およびアムドチベット語においても、発音上 *Lha-sgang* と *Lha-dga'* が極めて似通った形式になる可能性は十分にある。「塔公」という地名の由来が何であれ、言語学の角度から見れば、現地の説明の仕方にはその土地の方言の特徴がよく反映されているといえる。

5 まとめ

本稿では塔公郷でもっとも流布している口承の物語『菩薩の愛する地・塔公』のカムチベット語 Minyag Rabgang 方言群に属する Lhagang 方言による語りの資料を提示し、言語学的な分析を行った。加えて、この物語の複数の版における異同について考察した。

チベット系諸言語の各種方言・変種が現代社会のさまざまな要因により消滅の危機に瀕している状況において、筆者が共有する願いはゆっくりと消滅しつつあるこのような口承の伝統とその言語文化をできる限り記録し、保護することである。物語の内容の異同に関する議論はこのためにも必要とされる。塔公には多くの口承による民間の物語が存在する。以後、他の物語も本稿のような方法で記録されることが期待される。

付録

A 『菩薩の愛する地・塔公』文語版⁴⁴（短編版(B1)～(B15)に対応）

བོད་རྒྱལ་སྲོད་བཅོན་སྐམ་པོ་ནི་འགྲན་ལྷ་བལ་བའི་དཔལ་བོ་ཞིག་དང་། ཚབ་སྲིད་པ། དམག་དོན་ལ་
མཁས་པ་ཞིག་ཡིན་པ་མ་ཟད་ཚོས་ལྷགས་རིག་གནས་ལ་མཁས་པ་ཞིག་ཀྱང་ཡིན་པས། ཁོང་གིས་རྒྱལ་སྲིད་
བརྒྱུད་མ་ཐག་ཐབས་དང་རྩལ་ལ་བརྟེན་ནས་ཚབ་འབངས་ངོ་ལོག་པ་རྣམས་སྐར་བཀྲུག་ནས་བདེ་འཇགས་
ཀྱི་སྲི་ཚོགས་ཞིག་བསྐྱུན་ཡོད་ལ། ཡང་བཅོན་པོས་བྱིམ་མཚོས་ཀྱི་རྒྱལ་ཁབ་རྒྱ་དང་བལ་བོ་གཉིས་ནི་སྐབས་
དེར་ཤེས་རིག་ལག་རྩལ་དང་། སངས་རྒྱས་ཚོས་ལྷགས། ལྷག་པར་དུ་སྲིད་འབྱོར་དམག་གསུམ་ཐད་དར་ཞིང་
རྒྱས་པ་རྟོགས་ནས་༤༤ལོར་མགར་རིག་པ་ཅན་སོགས་སློན་པོ་ཁག་ཅིག་རྒྱ་ནག་དུ་བཏང་ནས་གོང་མ་ཐང་ཐེ་
ཚུང་གི་སྲས་མོ་ཐེ་ལྷན་གོང་རྩོལ་བཅོན་མོར་བསུས་ཤིང་། དེ་དང་མཉམ་དུ་སྐྱེ་རྟེན་རྩོལ་བོ་ཤྲུ་ལུ་ནི་གཙོ་བྱས་
པའི་གསུང་རབ་དང་སྐྱོན་ཚིས་སོགས་ཀྱི་བསྐྱེད་བཅོས་མང་པོ་རྗོངས་སྐལ་དུ་བྱུངས་ནས་ཡར་བོད་ཁ་བ་ཅན་
དུ་འགོ་ལམ་དུ། ཁམས་མི་ཉག་ཤར་སྟོད་བཞག་བྲ་དཀར་པོའི་མདུན་ཞོལ་ལྷ་སྐར་ཞེས་གྲགས་པའི་གནས་
འདྲར་སླེབས་སྐབས་ལྷ་ས་རྩོལ་བོ་སློར་བྱུར་དུ་རི་རྩིད་ལ་སོང་ནས་མིས་མི་ཐེག་པར་གྱུར། འོན་ཀྱང་གོང་རྩོལ་རྩོལ་
བོའི་སྐུ་འདི་བྱིར་ནས་ངེས་པར་དུ་ལྷ་སར་ཐེབས་དགོས་ན་ཡང་རྩོལ་བོའི་སྐུ་འགྲུལ་མི་ཐུབ་པར་གྱུར། སྐབས་
དེར་ཡུལ་མི་ཚོས་བཤད་སྲོལ་ལྟར་རྩོལ་བོའི་སྐུར་སློབ་དུ་གསུངས་བྱོན་ནས་ས་ཆ་འདི་ཉ་ཅང་རྒྱིད་པས་ང་
རང་འདྲར་བསྐྱེད་རྒྱུ་ཡིན་ཞེས་པར་གྲགས། དེ་ནས་གོང་རྩོལ་བྱ་གཏོལ་མེད་དུ་གྱུར་ནས་མགར་བ་རྣམས་ལ་
བཀའ་ཐབས་ཉི་རྩོལ་བོ་འདི་དང་གཅིག་པ་གཅིག་ཀྱང་ཡིན་པའི་སྐུ་ཞིག་བཅོས་པ་མ་ཚད་རྩོལ་བོ་དེར་ལྷ་ཁབ་
ཞིག་བཞེངས་པ་རེད།

B 『菩薩の愛する地・塔公』 Lhagang 方言短編版⁴⁵

ཉི་མ་གནའ་གནའ་ལ་རྒྱ་བཟའ་གོང་རྩོལ་ལ་ཡར་ལ་གདན་དྲངས་སྐབས་ལ་ཐང་རྒྱལ་བོ་གྱིས་ཁོ་ལ་
རྩོལ་བོ་གཅིག་སྐྱེན་བྱི་རེད། དེ་རྩོལ་བོ་དེ་ན་རྒྱ་གཟའ་གོང་རྩོལ་ལྷ་ས་ཡར་ལ་ལུར་འགོ་དགོས་བསམ་བྱི་རེད།
དེ་ལྷ་སྐར་སླེབས་སྐབས་ལ་རྩོལ་བོ་གྱིས་ཁ་གྲགས་བྱི་རེད། ས་ཆ་རྒྱིད་པོ་སྐྱག་མོ་ཅིག་རེད། ཁོ་ད་ཡར་ལ་མི་
འགོ་བེར་བྱི་རེད། དེ་རྒྱ་བཟའ་གོང་རྩོལ་ལ་ཐེར་ན་ཁྱོད་ཡར་ལ་འགོ་དགོས་རེད་མི་ཚད་བེར་ལྷ་ས་ཡར་ལ་

⁴⁴ この記述は bSod-nams dBang-mo (2014)の内容に基づいて書き改めたものである。
⁴⁵ この記述は本稿 2 節に掲げた語りについて、Lhagang 方言の実際の発音に近くなるようにつづりを若干調整し、かつ伝聞標識を取り除いたものである。

ལུང་འགོ་དགོས་རེད་དེ་འདྲ་ཟེར་བྱེད་དེ། དེ་རྩོམ་གྱིས་ཟེར་ན་ཁོ་དང་འདྲ་འདྲ་ཅིག་དེ་ལྟ་སྐྱེད་བཞེངས་ནི་
བཞག་རོགས་འོ་དེ་ཁོ་ཡར་ལ་འགོ་ལིས་ཟེར་སྐབས་ལ་དེ་རྒྱ་བཟའ་ཀོང་རྩོམ་ཨ་ན་ལྟ་ས་གྱི་རྩོམ་ཡིད་
བཞིན་ལོར་ལུ་དང་འདྲ་འདྲ་གཅིག་བཞེངས་བྱེད་དེ་ཨ་ན་ལྟ་སྐྱེད་རྩོམ་ཁང་ནི་བཞག་ཡོད་རེད།

དེ་ལྟ་སྐྱེད་སྐབས་སྐབས་ལ་དེ་རྩོམ་གྱིས་ཁ་གྲགས་ཡི་རྒྱ་མཚན་དེ་མཐོང་ལ་ནི་དེ་ལྟ་དགའ་བེར་ནི་ད་
ལྟ་དགའ་བའི་ས་ཆ་ཡིན་ན་ལྟ་དགའ་བེར་མིང་རྟགས་བྱེད་དེ། ལྟ་སྐྱེད་མ་ཚུ་མིང་ན་ལྟ་དགའ་བེར་རེད། དེ་
དུས་ཚོད་མང་པོ་ས་ཏུ་ཀལ་ཚར་སྐབས་ལ་དེ་ལྟ་སྐྱེད་བེར་ནི་ས་ཏུ་འགྱུར་ལྡོག་ཐེན་བྱེན་རེད་མི་ཚད་མ་གཞི་
ལྟ་དགའ་བེར་རེད། ལྟ་དགའ་ཡི་ས་ཆ་ཡིན་པའི་རྒྱ་མཚན་དེ་ཡིན་རྒྱུན་དེ་ལྟ་དགའ་བེར་བྱེན་རེད་ད་ནི་གི་ཅ་
ས་ལྟ་སྐྱེད་བེར་ནི་མིང་འགྱུར་བྱེད་དེ། །

C 『菩薩の愛する地・塔公』 Lhagang 方言短編版の再整理版⁴⁶

གནའ་སྤ་མོ། བོད་རྒྱ་རབས་ཀྱི་སྐབས་སུ། རྒྱ་བཟའ་ཀོང་རྩོམ་ལ་མནའ་མ་འོང་ཁ། ཐང་ཐེ་ཙོང་གིས་
ཀོང་རྩོམ་ལ་མནའ་མའི་སྐལ་བ་ལྟ་སྐྱེད་ཞིག་རྒྱུན་བྱེད་དེ། རྒྱ་བཟའ་ཀོང་རྩོམ་སྐྱེད་བཞེངས་ཁ། ལྟ་སྐྱེད་ཡིས་
གསུངས་སྒྲོག་བྱེད་དེ། གསུངས་སྒྲོག་ནང་དོན་ནི། འདི་ན་ས་ཆ་རྒྱུད་པོ་ཞིག་རེད། ང་རང་འདི་ན་འདུག་སྟེང་
རྩོད་ཏུ། ད་འགོ་ལེ་མ་ཡོན། རྒྱ་བཟའ་ཀོང་རྩོམ་ཁྱེད་ངེས་པར་ལྟ་ས་ཕྱོན་དགོས་རེད། ངས་ཁྱེད་རང་གི་འདྲ་
སྐྱེད་ཞིག་བརྩོས་ནས་འདི་ན་བཞག་ཚོག་བྱེད། ད་སང་ལྟ་སྐྱེད་དགོན་པའི་ནང་གི་ལྟ་སྐྱེད་ནི་ཐང་རྒྱ་རབས་སྐབས་
སུ་རྒྱ་བཟའ་ཀོང་རྩོམ་བཞག་རྒྱ་དེ་རེད།

མིང་ལ་རྩོམ་པོ་མི་འགོ་གསུངས་འདོག་བེར། ལྟ་སྐྱེད་ཞེས་པ་ནི་སྟོན་མ་རྩོམ་པོ་མི་འགོ་གསུངས་འདོག་
དགའ་བའི་ས་ཆ་ཡིན་པའི་རྒྱུན་གྱི་ལྟ་དགའ་ཐོག་བ་རེད། རྩེས་མར་སྐྱེད་འགྱུར་བའི་རྒྱུན་གྱི་ལྟ་སྐྱེད་ཞེས་དགའ་
ནི་སྐྱེད་སུ་འགྱུར་ལོང་།

⁴⁶ この記述は第3著者が2節の語りを書き改めたものである。

参考文献

- Epstein, Lawrence、彭文斌 (2013) 〈甘加和墨尔多：藏东两个朝圣地的空间社会结构〉（才让卓玛 訳），载：苏发祥主编《人类学视野中的安多藏区研究》，101-128，中央民族大学出版社（原版：Autumn Ganjia and Murdo: The social construction of space at two pilgrimage sites in Eastern Tibet. *Tibet Journal* 19(3), 21-40, 1994）
- 黄布凡 (1985) 〈木雅语概况〉《民族语文》第3期 62-77.
- 池田巧 (1998) 〈木雅语语音结构的几个问题〉『内陸アジア言語の研究』XIII, 83-91.
- Karma rGyal-mtshan (2002) *mDo-Khams gnas-yig phyogs-bsgrigs dad-bskul lha-dbang rnga-sgra zhes bya-ba bzhugs-so*. Mi-rigs dPe-skrun-khang.
- 格桑居冕 [sKal-bzang 'Gyur-med] (1985) 〈藏语巴塘话语音分析〉《民族语文》第2期 16-27.
- Lha-mo-skyid (2010) *Mi-nyag sa-khul-gyi kha-skad-kyi khyad-chos-la rags-tsam gleng-pa*. 西北民族大学畢業論文
- 長田幸康 (2002³) 『旅行人ノート チベット』旅行人
- 史卫国 [Schwieger, Peter] (2013) 〈口述史：康区察雅集体认同之建构〉（索朗卓玛 訳），载：徐建华主编《云南藏学研究（一）》，52-76，民族出版社（原版：History as oral tradition: the construction of collective identity in Brag g.yab. In Lawrence Epstein (ed.) *Khams pa Histories: Vision of People, Place and Authority*, 127-154, Brill, 2002）
- Sonam Wangmo (2013) *Lhagang Monastery in Myth, History and Contemporary Society*. M.Phil. Thesis, Universitetet i Oslo.
- bSod-nams dBang-mo (2014) *lHa-sgang dgon dang de'i spyi-tshogs phan-nus-skor gleng-ba*. 中央民族大学碩士論文
- 鈴木博之 (2006) 「チベット語塔公[Lhagang]方言の方言特徴とその背景」『ニダバ』35号 39-47.
- (2009) 〈川西地区“九香线”的藏语方言：分布与分类〉《汉藏语学报》第2期 19-27.
- (2013) 《《天全译语》及《打箭炉译语》与当代木雅热岗藏语的关系》“华夷译语”和西夏字符国际学术研讨会（北京）會議論文
- (2014) 《藏语方言学研究的基础问题：以木雅热岗地区为例》中国社会科学院民族学与人类学研究所人类学论坛第五十六讲 講座稿
- Suzuki, Hiroyuki (2009) Introduction to the method of the Tibetan linguistic geography — a case study in the Ethnic Corridor of West Sichuan. In Yasuhiko Nagano (ed.) *Linguistic Substratum in Tibet — New Perspective towards Historical Methodology (No. 16102001) Report Vol.3*, 15-34, National Museum of Ethnology.
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2014) *Language evolution and vitality of Lhagang Tibetan, a Tibetic language as a minority in Minyang Rabgang*. Paper presented at the workshop on the linguistic minorities of the Chinese Tibetosphere (Uppsala).

- (2015) Quelques remarques linguistiques sur le tibétain de Lhagang, «l'endroit préféré par Bodhisattva». *Revue d'Etudes Tibétaines* (in press).
- 王诗文 (2013) 《藏语康方言语法研究——德格话语法》民族出版社
- 王双成 (2012) 《藏语安多方言语音研究》中西書局
- Warner, Cameron David (2011) A miscarriage of History: Wencheng Gongzhu and Sino-Tibetan historiography. *Inner Asian Journal* 2, Vol. 13, 239-264.
- 山口瑞鳳 (1983) 『吐蕃王国成立史』岩波書店
- 张怡荪主编 (1995) 《藏汉大辞典》民族出版社
- 朱晓农 (2010) 《语音学》商務印書館
- Zla-ba sGrol-ma (2014) *mGar-thar dgon-pa'i lo-rgyus dang da-lta'i gnas-bab-skor-la rags-tsam dpyad-pa*. 中央民族大学碩士論文